

解説

介護保険制度の「要」

介護の計画作りを担うケアマネジャーを... 2019年度の受験者数は前年度比17%減の約4万1000人と2年連続で過去最低を更新した...

役割と待遇 再考必要

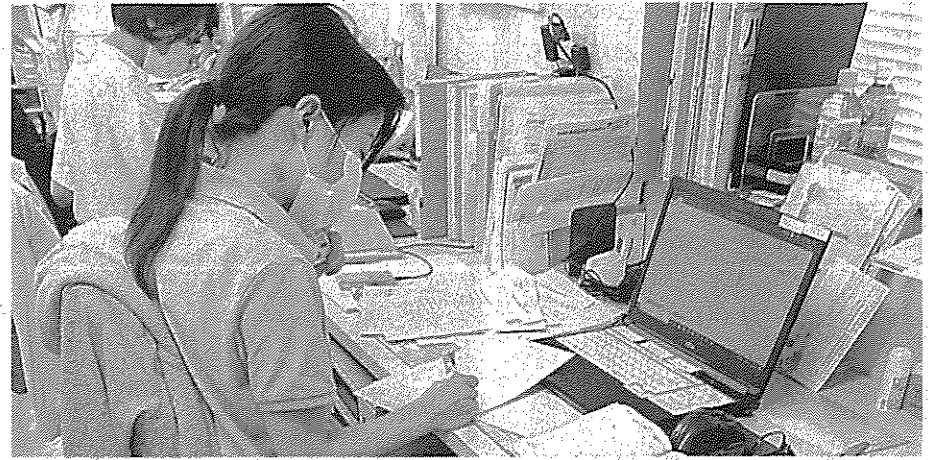
合格1万人割れ

「書類作成に調整業務、新型コロナウイルス対応と、きりが無い」

東京都江戸川区のケアマネ事業所「介護屋みらい」で働く佐藤寛子さん(43)は、利用者の介護の必要性についての評価や、生活課題の分析など書類作成の作業量が増えたと感じている...

2000年に創設された介護保険制度でケアマネは、ケアプランを策定するなど重要な役割を果たしてきた。豊富な知識と経験が求められ、介護関連の資格では「最高峰」との位置づけだ。

ただ、制度創設から20年が経過する中で、ケアマネを目指す人が減っている。厚生労働省によると、ケアマネジャーの受験者数は1998年度の約20万7000人がピークで、10万人を割り込むことは...



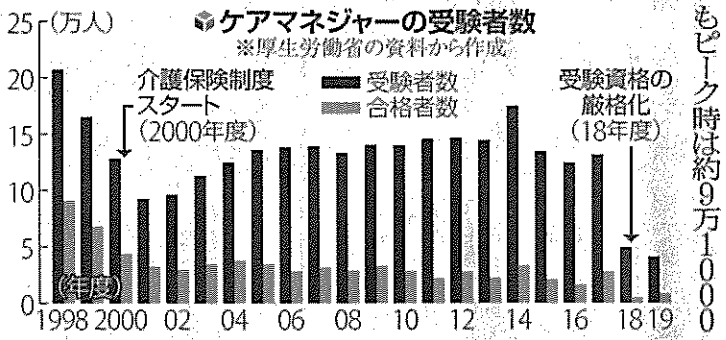
ケアマネジャーは、介護保険サービスに限られず様々な作業に追われる(ケアマネ事業所「介護屋みらい」)

ケアマネの負担を軽減するため、ケアプラン作成に人工知能(AI)を活用する動きが出ている。AI「ケアプランアシスタント」を開発し、今秋の発売を目指している介護福祉系IT企業のウェルモ(東京)は福岡市や横浜市と協定を結び、実証実験を行っている。

ケアプラン作成 AIで負担軽減

過去に実際に作成されたケアプランや専門知識などを学習させたAIに、利用者の症状や介護のニーズなどを入力すると、自動的に5通りのプランが作られる。ケアマネは最適なプランを選び、自らの経験や利用者への要望に沿って書き換える。AIが再点検して内容を深める仕組みだ。

鹿野佑介・最高経営責任者(CEO)は「特に経験年数が5年以下のケアマネは、能力にばらつきがあるのが実情。AIを活用し、充実した介護サービスの提供につなげたい」と語る。シティーアイ(東京)の



ケアマネジャーを巡る主な課題 広がる業務の範囲 医療との連携や、保険外活用のサービスなど求められる役割が増え、多忙に... 待遇 処遇が改善されたベテラン介護職と、ケアマネの収入の差が小さくなっている



ケアマネジャー 本人や家族の相談に応じて介護計画(ケアプラン)を作成し、市区町村や事業者との連絡や調整にあたる専門職。看護師や介護福祉士など医療や介護分野の国家資格、5年以上の現場での実務経験などが試験を受ける条件となっている。実働人数は全国で約20万人。



急減の直接のきっかけは18年度からの受験資格の厳格化(保有資格、実務経験など)だ。ケアマネを巡っては、質の確保や、業務の中立性が長年の課題で、介護事業所で働くケアマネが自社の介護サービスを必要以上に使わせる「囲い込み」が横行したことなどが、厳格化の一因となった。

「囲い込み」が横行したことなどが、厳格化の一因となった。しかし、介護現場や職者からは構造的な問題を指摘する声が出ている。一つは、ケアマネの役割が拡大したことによる負担増だ。高齢者が病院から退院する際の医療機関との連携や、介護保険以外のサービスの調整など、求められる役割は増えている。

「何でも屋さん」 人だったが、直近では2年連続で1万人を切っている。急減の直接のきっかけは18年度からの受験資格の厳格化(保有資格、実務経験など)だ。ケアマネを巡っては、質の確保や、業務の中立性が長年の課題で、介護事業所で働くケアマネが自社の介護サービスを必要以上に使わせる「囲い込み」が横行したことなどが、厳格化の一因となった。

全国市長会で介護保険対策特別委員会の委員長を務める大西秀人・高松市長は、「(ケアマネの)業務が複雑・高度化し、より高いスキルが求められる。受験者数が減る中、担い手を確保するために基本報酬などを含めた処遇改善や業務負担の軽減が不可欠だ」と指摘する。

こうした声を踏まえ、今年議論される介護報酬改定では、ケアマネの処遇改善が焦点の一つとなっている。ケアマネの質の維持と、担い手の確保を両立させる難しいかじ取りが求められている。淑徳大の結城康博教授(社会保障論)は、「資格の門戸を狭めたことで、このまま受験者数が減っていき、むしろケアマネの質が低下することも懸念される。ケアマネの処遇の改善とともに、果たすべき役割の範囲や、評価の方法を再考していく必要がある」と話している。

AI支援システムは神奈川県などで実証実験に用いられ、愛知県豊橋市では19年度から本格導入された。神奈川県の実証実験では、1000人のケアプランをAIを用いて再点検したところ、約1割で見直しにつながるなどの成果があった。

ただ、AI作成のケアプランについては、「まだ本格的に活用できる段階にはない」「あくまで補助的なツールにすぎない」といった声も聞かれる。